
琴線

西城 要

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

琴線

【コード】

N9937J

【作者名】

西城 要

【あらすじ】

日常の中にある非日常。

序章

その日は天気が悪かった。水分を含んだ灰色の雲が何層にも重なって、私達の頭上に覆いかぶさっている。吸い込んだ空気には湯気が無く、曇りの日独特の匂いを感じさせながら、肺にじわりと酸素が染みていくのを感じた。

玲子は傘を持っていないことを悔やんだ。

「朝、天気予報を確認したら」と、

冷めたコーヒーを手に持ちながら憎らしく呟いた。

伝達する相手方を持たないその言葉の固まりは、雲へ上っていく水と同じ様に、さ迷うようにして雲に吸い込まれて行ったように思えた。その日、北垣玲子は前島葵と待ち合わせの約束をしていた。

玲子と葵は高校時代からの友人で、三ヶ月に一度くらいの間隔で、葵は玲子に相談を持ちかけて来た。

彼氏のこと、

勉強のこと、

受験のこと、

化粧のこと、

翌月行われる葵の好きなアーティストのこと、

生理不順のこと、

セックスのこと、

家で飼っている猫のこと、

弟の受験のこと、

その相談のどれもが、たわいもなく、とりとめもなく、玲子を退屈にさせるものだった。

そして毎回玲子を苛立たせるのが、決まって葵が待ち合わせ時間か

ら30分遅れてくることだった。

既に冷めきったコーヒーが入ったティーカップを口元に運ぶ、その動作を繰り返し返しながら葵の到着を待ったが、時間が経過していく方が先であった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9937j/>

琴線

2011年10月6日18時23分発行